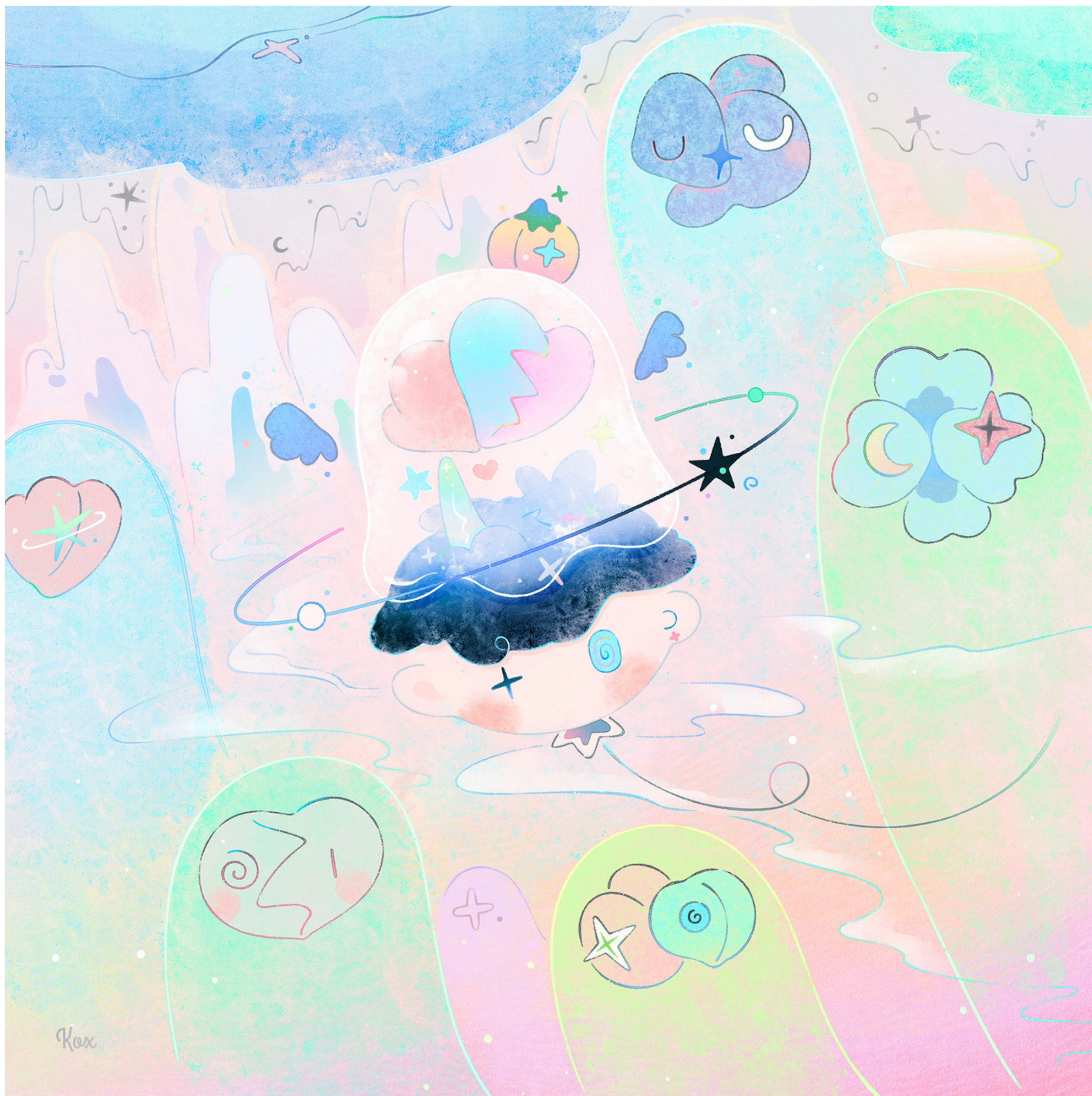


わくわく中国文化



—三国志から四字熟語を勉強しよう—

Illustration by KOH_HSL(instagram)

著者の一言



皆さん、令和7年度から情報誌は1カ月おきに1回発行することになりました。今年度は日本でも有名な中国の「三国志」に関する四字熟語を紹介したいと思います。中国語をもっと上達させたい人や三国志に興味を持った人や四字熟語をもっと身につけたい人にふさわしい内容をたっぷり載せますので、ご覧いただければ幸いです。

七(qī)擒(qín)七(qī)纵(zòng)

三国时期诸葛亮七次捉孟获，又放了他七次；比喻运用策略，使对方心服。



七縱七擒(しちしょうしちきん)

三国時代、蜀の諸葛孔明が敵將の孟獲を捕えては逃がしてやることを7回繰り返しました。策略を用いて、相手を心から承服させるという比喻です。

◀ 『諸葛孔明』 / (Canva)

乐(lè)不(bù)思(sī)蜀(shǔ)

指快乐得不再思念蜀国；比喻乐而忘返或乐而忘本留恋他乡。

樂不思蜀(らくふししよく)

三国時代の蜀の第二代の皇帝である劉禅は、魏に降伏して、洛陽の生活を満喫していました。劉禅は司馬昭が主催した宴に招かれて、蜀の出し物を見ても「ここが楽しくて、蜀のことなど恋しくない」と発言したことに由来します。楽しさのあまり根本を忘れるという比喻です。



◀ 『劉禅』 / (Baidu)

三(sān)顾(gù)茅(máo)庐(lú)

东汉末年，刘备曾三次去茅草房访聘诸葛亮，请他出来帮助自己打天下（顾：拜访。茅庐：草房）。后人用“三顾茅庐”来比喻诚心实意地一再邀请。

三顧(さんこ)の礼(れい) 草廬(そうろ)三顧(さんこ)

後漢晩期、劉備玄德は3回も草ぶきの家へ諸葛孔明を訪ねに向いて、天下を取るために諸葛孔明を軍師として迎えました。誠心誠意尽くして優れた人材を何度も招くという比喻です。



望(wàng)梅(méi)止(zhǐ)渴(kě)

指想象青梅，流出口水而解渴，比喻从不切实际的空想中来宽慰自己。

东汉末年，曹操率领部队去讨伐盘踞在宛城的张绣。行进至一片荒原，没有水源。士兵们口干舌燥，曹操谎称前面山坡有梅林，到了那里大家都可以敬请享用青梅。士兵们一听青梅，顿时想象起酸味，顿时就不觉得很渴了。



梅(うめ)を望(のぞ)んで渴(かわ)きを止(とど)む

後漢晚期、曹操が宛城に巣くった張繡を討伐しようとして、部隊を率いて荒れ野を通った時、兵士たちは飲む水もなく渴きに苦しんでいました。曹操が「この先に梅林があります」「梅林でたくさんの梅を召し上がれ」と元気づけたら、兵士たちは梅の酸っぱさを思い出して、一時的に渴きを忘れしました。

梅を想像して、口の中が潤ってきて喉の渴きをいやすことから、現実離れた空想によって安らぎや慰めを得るという比喻です。

▼『三国志画伝』曹操の智、梅酸渴を止む / 画・歌川国安（国立国会図書館）

